B 25 中間宿主貝の分子系統学的研究-カワニナ類ミトコンドリア DNA の CO1 領域における驚くべき種内変異

○石上祐子（高知医科大学・看護）、石上盛敏（高知医科大学・環境保健）、浦部美佐子（土木研自然共生研究センター）、吾妻健（高知医科大学・環境保健）

Molecular phylogenetic studies on intermediate snail hosts - Suprising intra-specific variations of the CO1 region of mitochondrial DNA in species of *Semisulcospira*.

Iwagami Y., Iwagami M., Urabe M. and Agatsuma T.

本研究では、高知県におけるカワニナ類（カワニナおよびチリメンカワニナ）についてミトコンドリア DNA の CO1 領域の塩基配列を調べ、両種ともに驚くべき種内変異が見いだされたので報告する。今回調査した材料は、カワニナは高知県から、またチリメンカワニナについては、高知県からと京都市から採集し、塩基配列を調べた。今回は比較のため、琵琶湖固有種ハベカワニナ、宇治川固有種ナカセコカワニナについても塩基配列を調べた。その結果、両種とも、それぞれ2つのグループに分かれた。グループ間の塩基置換数は極めて大きかった。近隣結合法による系統樹解析を行ったところ、大きくカワニナとチリメンカワニナの2つのクラスターに分かれたが、ハベカワニナとナカセコカワニナは一つのクラスターを形成し、チリメンカワニナのクラスターと融合した。また、形態的な分類と分子による分類が合わない個体があり、両種で交雑をしていることが暗示された。

B26 日本におけるヤマビルの分布および吸血被害地域

○井上一子・宇井寿恵子（ヤマビル研究会）・石川恵理子・谷重和（イカリ（株）・ヤマビル研究会）

Distribution and injury area of blood sucking of land leech in Japan

Inoue I,Ui S,Ishikawa E,and Tani S

現在までにヤマビルの分布が報告された地域は、北は秋田県から南は八重山諸島まで広い範囲にわたっているが、これらは 1886 年から 1983 年までの古い資料を元にしており、現在のヤマビルの生息状況および吸血被害地域の詳細な地名などは把握されていない（大野 1984, 千葉県ヤマビル生態状況実態調査報告書、1991）。そこで、今回、ヤマビル研究会のHPを通じて1999年8月から2001年10月までの間に、ヤマビルを見かけた地域および吸血被害にあった地名についての情報を集めた。その結果、北は秋田から南は沖縄まで、21 県 44 市町村 100 地点以上の広い範囲に現在もヤマビルが分布しており、吸血被害のあることも明らかになったので、それらの成績について報告する。